

## 序

高齢化や糖尿病患者の増加が進むなかで、足のトラブルは決して特別なものではなく、日常診療やケアの現場で誰もが直面する身近な課題となっています。しかし、足の異常は痛みや自覚症状が乏しいまま進行することも多く、「もっと早く気づいていれば」と感じる場面を、私たちはこれまで少なからず経験してきました。

下北沢病院では、外来や病棟、リハビリなどすべての現場で、医師や看護師をはじめとするスタッフが日常的に足に目を向け、小さな違和感について言葉を交わしています。そうした日々の気づきやディスカッションの積み重ねが、重症化を防ぐ第一歩になると私たちは考えてきました。

本書は、下北沢病院の医師やスタッフが、日々の診療やケアの現場で積み重ねてきた経験と工夫をもとにまとめた、実践的な一冊です。フットケアの本質は、特別な技術や高度な専門性だけにあるのではなく、日常の関わりの中で足に目を向け、小さな変化に気づき、それを共有する姿勢にあると私たちは考えています。

本書が、医師・看護師をはじめ、足に関わるすべての医療・ケア従事者にとって、患者さんの足とその生活を守るためのヒントとなれば幸いです。

2026年2月吉日

富田 益臣